

# 上宮寺通信

第七十四号

## お札の顔

新紙幣が発行されてから約三ヶ月。徐々に新紙幣を手にする機会が増えてまいりました。

今回、新紙幣の顔となったのは一万円札が渋沢栄一、五千円札が津田梅子、千円札が北里柴三郎です。

渋沢栄一は三年前の大河ドラマ「青天を衝け」でもその生涯が描かれ、近代日本の経済の礎を作ったといわれる人です。

日本ではじめて銀行を設立し、株式会社を導き、経済の発展に大いに貢献しました。「論語とそろばん」を理念として提唱し、そろばん(経済)だけがうまくてもダメで論語

(道徳)をきちんと自分の中に持っていないといけない。つまり、経済活動には信用信頼が一番大切で、そのことを忘れてしまふと「お金のため」にどんな悪事にも手を染めてしまいかねないという人間の弱さを見つめていたともいえるのです。

そんな渋沢栄一が新一万円札の顔となったのですが、その前は福沢諭吉でした。福沢諭吉も同じく近代日本の礎を作った人でした。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」の言葉で有名な『学問のすすめ』を著し、人間はそれぞれ平等であり、それぞれが自立していくためには学問が重要であると説きました。

学問を身につけるとは単に知

識を詰め込むということではなく、人間性を高めるということです。福沢諭吉もまた「お金のため」だけに生きる人間になるのではなく、尊敬に値する人間になることをすすめているのです。

それだけ「お金」というものは人間を狂わせてしまう危険性がある。だからこそ、渋沢栄一も福沢諭吉も人間力を高める必要性を説いたといえます。

しかし、もっと真理をついたことを伝えたお札の顔となった方がいました。それは聖徳太子。若い人は聖徳太子がお札の顔となっていたことも知らないかも知れません。

聖徳太子は「世間虚仮 唯仏是真」といわれました。世の中

のものはすべて空しく仮のものである。唯一本物は仏の教えであるということです。仏の教えに照らすと人間はひとしく「凡夫」であり、本物でないものに一喜一憂しているということを示されました。

こうしてみると、歴代の日本の一万円札の顔となった人物は「お金のため」だけに生きることに警鐘を鳴らしているといえるのです。



◆行事案内

報恩講

11月8日(金)午前10時

法要 引き続き 法話

法話 伊奈祐諦 師

(西尾市安楽寺前住職)

※午前のみ法要です。持ち帰り用の軽食をご用意いたします。

本山報恩講団体参拝(日帰り)

11月21日(木)

東本願寺報恩講(連夜)参拝、

醍醐寺(三宝院)見学 他

参加費 一五、〇〇〇円

定員 30名(定員になり次第締切)

◆話題あれこれ

○9月8日の秋の彼岸会・永代経法要には、猛暑にもかかわらず多くの方にお参りをいただきありがとうございました。ちょうど、法要が終わった正午から某テレビ局で「東別院」を紹介する番組があり、法話の田中先生が出演していました(見られた方はいるかな?)

○11月8日(金)には浄土真宗で一番大切な法要である報恩講をおつとめいたします。そのころには過ぎしやすくなっているとは思いますが、ぜひお参りください。法話は西尾市の伊奈先生にお越しいただきます。

○今年も11月16日(土)に東別院の定例法話のご縁をいただきました。午前が11時10分から、午後が1時から(各30分)となります。会場は東別院対面所となりますので、ご都合つきましたらご聴聞ください。

○記録的な猛暑もようやく落ち着いて季節は秋、そして冬へと移っていきます。体調を崩しやすい時期です。どうぞお身体を大切に過ごしてください。

○ホームページ、公式LINEもよろしく願います。

【雑感】

成績低迷の責任をとる形でドラゴonzの立浪監督が退任することになりました。2年連続の最下位で、今年もCS争いに加わることもできない最下位争い(9月末現在)。さすがにこの成績では仕方ないですが、期待が高かっただけにかなり残念に思います。成績はふるわなかったですが、立浪監督は若手を積極的に起用しました。その選手たちが次の新監督のもとで花開き、黄金時代を再び築いてくれることを期待します。いろいろと思うことはありますが、やっぱり立浪監督で一度は優勝してほしいなあ。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547



ホームページ



公式LINE